

# 信州型コミュニティスクール

## 北信地区活動だより

NO. 21 (令和4年2月) 北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 岡田 絵美

昨年から続くコロナ禍の中で、オンラインの良さを活かして交流活動に繋げた屋代小学校の事例を20号でご紹介しました。21号では、活動の様子を詳しくご紹介します。

### 屋代小



## 「シニア大学『Zoomチャレンジ倶楽部』とのオンライン交流活動②」

松組さんの交流活動は感染警戒レベル4の中で行われました。子ども達はフェイスシールドをつけて感染症対策を行いながら活動しました。シニアの皆さんはそれぞれの自宅からオンラインで繋がっての参加でした。

### II ブレイクアウトルームで顔の見える交流

千曲市立屋代小学校2年生とシニアの皆さんによる「Zoomチャレンジ倶楽部」(以下ズムチャレ)との2回目の交流活動が行われました。今回は「顔が見える関係」を築くことができるように願ってZoomのブレイクアウトセッション機能を使って進められました。

#### 活動内容

- ①担任の先生からのお話(交流のねがい) 2分
- ②アイスブレイク(シニアの方) 5分  
あいさつと体ほぐし
- ③ブレイクアウトルームで交流 30分
  - (1) 自己紹介
  - (2) おみくじしつもん
- ④感想発表 5分
- ⑤またあいましょうの「バイバイ」3分  
番外編…子ども達のお笑いやなわとび  
「時間のある方は見てください」



自己紹介では、がんばっていることをシニアの皆さんに見てもらいました。  
「算数のノートをがんばっています」

「もっとノート見せてよ」  
「どんなことやったのか、もう少し教えてくれるかな」

おみくじ質問では、シニアの皆さんの小学生のころのことを質問しました。「小学生の頃、宿題をちゃんとやっていたすごいと思いました」



### 末廣先生に教わりました「コミュニケーションツールの一工夫」



小学生のときに、やってよかったことは？	今のゆめは？	小学生のとき、夏休みや冬休みや春休みにはどんなしゅくだいがありましたか？また、そのしゅくだいは、ちゃんとやりましたか。
小学生のころのお気に入りのおやつは？	小学生のころ、きれいだったきゅうしょくは？	小学生のころ、すぎだったきゅうしょくは？
小学生のとき、すぎだったあそびは？	小学生のとき、すぎだったべんきょうは？	今、すぎなこと(しゅみ)やがんばっていることは？

画面越しの交流では、コミュニケーションのきっかけになるしかけがあると、スムーズです。

今回使ったのは「おみくじしつもん」です。子ども達が考えた質問を紙に印刷したものが左です。シニアの皆さんには事前にメールで送ります。シニアの皆さんは、それぞれプリントアウトしたものを線で切って、折りたたんでおきます。それをくじのように引いて、相手に質問していきました。

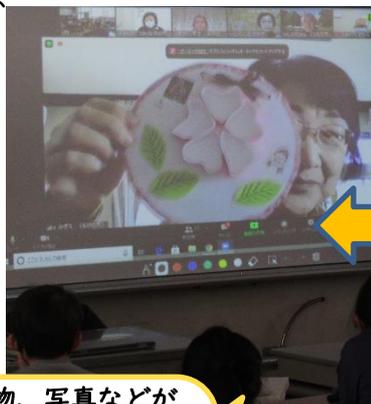
様々な場で活用できるツールです。

竹組さんの交流活動は、まん延防止等重点措置、感染警戒レベル6の中で行われました。学校では子ども達がグループになる活動はできなくなりました。しかし、ここで中止にならないのは、オンライン交流の強みでもあります。今回の交流は、シニアの皆さんからの提案で、SDGsに関する発表をしていただきました。

## ■ オンラインの強みを生かした交流

### 活動内容

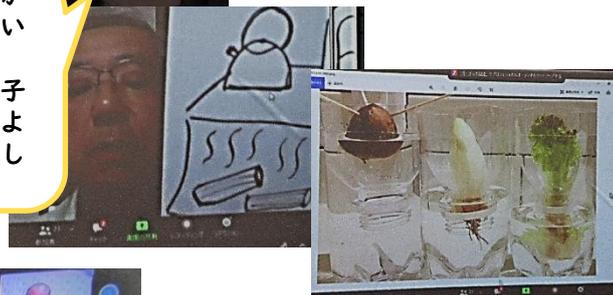
- ① 担任の先生からのお話(交流のねがい) 2分
- ② アイスブレイク 3分  
脳トレをやってみよう
- ③ シニア大学の紹介 10分
- ④ みんなで考えてみよう  
「地きゅうにやさしくできること」 40分
- ⑤ 今日のかんそう・先生のお話 4分
- ⑥ 記念写真「またねー」のあいさつ 1分



身を乗り出すようにして見る子ども達の視線の先には



絵、実物、写真などが画面に大きく映っています。シニアの皆さんが、子ども達が分かり易いようにと、工夫を凝らした発表でした。



写真で見せてもらった、種や切った後の野菜をペットボトルの水につけて育てるのを僕もやってみたいです。



発表するのにドキドキしていたけど、感想を聞いて、スッキリした気持ちです。嬉しいです。またがんばりま〜す！(笑顔&ガッツポーズ)

【感想発表の一場面より】

### 💡 中村先生に教わりました「オンライン交流をやってみて分かった良さ」



- 準備の少なさ…教室で行う通常の活動をPCのカメラで拾ってZoomでつなげば行えるので、PCと黒板に映すシートがあればすぐにできる手軽さがあります。
- 時間の融通が利く…当然ですが移動の時間がありません。通常の授業時間でできるので、一度きりの交流ではなく、複数回行うことが可能です。何度か回数を重ねることで、相手の顔が分かり、名前を呼び合える交流活動になります。また、やってみてうまくいかないことがあったとしても、「次はどうすればいいかな」と考えて次につなげることができるのも良さだと感じています。
- 子ども達にとって抵抗が少ない…私たち大人が考えているよりも、オンラインでの交流は子ども達にとってハードルが低く、抵抗なく入ることができるコミュニケーション活動のようです。画面に大きく映せるのも、見やすく顔がよく分かりますし、自分のつぶやきにも多くの方から即座に反応してもらえ、ちょっとした褒め言葉も子ども達の心に残り、次へのモチベーションとなっています。何より、コロナ禍にあっても、先生やお家の方以外の大人と対等に交流し、認められる経験ができていますのはありがたいです。コロナ後は、実際に会う活動、オンラインの活動、それぞれの良さを活かしていけると良いなと思います。

## お気軽にお問い合わせください

地域とともにある学校づくりの充実に向けて、学校や地域に出向いての信州型CSの基礎研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡していただけましたらと思います。

■■ お問い合わせ先 ■■  
北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1 担当：岡田  
Tel : 026-234-9552 E-mail : [hokushinky@pref.nagano.lg.jp](mailto:hokushinky@pref.nagano.lg.jp)

